

平成24年(2012年)
1/1
No.1521

広報としま

未来へひびきあう人まち・としま

新年特別号

主な内容

- ・新春対談 2面
- ・安全安心 区民の方へインタビュー 3面

発行:豊島区 編集:政策経営部広報課 〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1 ☎3981-1111 ホームページ <http://www.city.toshima.lg.jp/>

謹賀新年



消防署職員による、火災の恐ろしさ、地震の時の行動についての話に耳を傾ける朋有小学校の子どもたち

未来へのバトンを子どもたちに 絆が結ぶまちづくり

子どもたちは守られる側であると同時に、災害時には地域の大きな力となります。子どもから高齢者まですべての人が、お互いを信頼し、このまちに住み続けたいと願う気持ちから地域に強い絆が生まれます。

今年は、いよいよ区民の皆さんと力を合わせて準備を進めてきた、WHO協働センターの国際認証制度、セーフコミュニティの認証取得を実現させる年です。子どもたちの若い力と笑顔が輝くとしまへ。愛するまちを創っていきましょう。



6年生の代表が
消火器で
的に向かって
放水!



※撮影:朋有小学校。4面で子どもたちの取り組みを紹介しています。

皆さまのご健康とご多幸を心から祈念いたしますとともに、子どもたちが夢と誇りをもてる地域社会を築いていくために、今後とも、区民の皆さまのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

本年、豊島区は区制施行80周年を迎えます。この記念すべき節目の年に、区民の皆さまとともに、安全・安心都市の世界基準であるWHO協働センターのセーフコミュニティ認証取得を実現し、先人たちが築いてきた「地域の力」をさらに高め、未来へ確実にバトンを引き継いでまいりたいと思います。

安全・安心創造都市の実現に向けて



豊島区議会議長
里中 郁男



豊島区長
高野之夫

初春のお慶びを
申し上げます

高野之夫

が災害に強いまちをつくります

今後30年以内に首都直下型の地震が起ころる確率は70%だと言われています。23区で一番の高密都市である豊島区では、万が一甚大な被害が発生した場合、どのようにまちを復興し、再生するかを想定し、復興マニュアルづくりを進めています。今回は作成にあたってご協力頂いた、明治大学大学院特任教授／中林一樹氏をお招きし、官民一体となつた防災まちづくりをテーマにお話しいただきました。

高野之夫

豊島区長

高野区長(以下、区長)●3月11日の東日本大震災で豊島区はもちろん、日本中の防災に対する意識が変わりました。中林先生の講演では「事前復興」というキーワードがとても新鮮でした。

中林一樹(以下、中林)●被害が起ころつてからではなく、起ころ前に復興の準備をすすめておこうという考え方で、阪神淡路大震災をきっかけに生まれました。東京の被害想定は阪神地区の5倍。神戸と同じスピードで復興しようと思えば、事前の取り組みが不可欠です。そこで「自分の住むまちが燃えたり壊れたりしてしまったら、どのように復興するのか」を地域の皆さんと一緒に考え、未来のまちの姿をあらかじめ描いておこうというわけです。復興の道筋を経験しておけば、気持ちも前向きになります。

区長●以前は、復興など災害が起ころつてから考えればよいという意見が大半だったようになります。

新春対談

中林一樹

明治大学大学院特任教授

中林●大前提にあるのは、災害を乗り越えて、このまちを復興するのだという気持ちです。これは日常のまちづくりではぐくまれるのです。このまちに住み続けたいとの想いがなければ、住民は流出し空き地ばかりが増えててしまうでしょう。

区長●まちを愛する気持ちが大事ですね。

中林●そのとおりです。今、「レジリエンス(resilience)」という言葉が国際的にも盛んに言われるようになりました。災害

するのかであり、むだのない空間整備が必要でした。重要なのは住民がどういう暮らし方を

●中林一樹
(なかばやし いつき)

1947年生まれ。明治大学大学院政治経済学研究科特任教授。首都大学東京名誉教授、工学博士、一级建築士。内閣府中央防災会議専門委員、東京都防災会議地震部会専門委員などを歴任。5年以上にわたり豊島区の防災対策に関わる。著書に『大震災に備える』(丸善)、『自治と参加・協働』(学芸出版社)など。

区長●地域の力という観点から言えば、もしもの場合に一番頼りになるのは中学生、高校生。防災訓練にも大勢の中学生が、はつらつと参加してくれています。

中林●子どももまちを守る戦力です。そのためにも、もう一度義務教育を地域教育に位置づけてくれています。

区長●保護者と子どもが共に防災の知識を持つ、それぞれ自分の命を守れば、結果として全員が助かるということですね。保護者が帰宅困難になつても、子どもは地域や学校で安全に過ごせるという信頼関係が築けていれば、危険な中を是が非でも家までたどり着かなくも構わない。地域への信頼が命を救うことにつながるのでしょうか。

中林●最悪の事態を防ぐには、イマジネーションこそが力になるのです。また、まちづくりとは夢を描くことであり、夢を描ける人はイマジネーションの持ち主でもあります。夢を夢で終わらせず実現しようと行動すれば、それはやがて周囲の人にとっても自分自身の夢になつていくでしょう。夢を描く想像力が未来を切りひらき、創造力を生み出す。これが人間の力なのです。

区長●夢を持つのは人間の特権ですね。区民一人ひとりがイマジネーションを持ち、リーダーシップを發揮して、まちづくりを行なつていけるとよいですね。復興マニュアルを作るところでおしまいではなく、行政と区民が協力して、いかに毎日のまちづくりに活かせるか、ここからが本当の豊島区の挑戦になります。

す。行政にも道路、建物といった器を安全にするだけでなく、その中で住民がいきいきと生活できる舞台を準備する役割が求められます。

区長●豊島区では、小学校区に一つ設けた「区民ひろば」を中心に、世代を超えたコミュニティが生まれつつあります。地域の特色を活かし、運営も地域の皆さんにお任せしているのですが、その点がWHOのセーフコミュニティ認証においても高く評価されています。都市の目指す形はいろいろだと思いますが、最終的に行き着くのは「安全安心なまち」だと思います。

セーフコミュニティ認証に挑戦するのも、「安全安心のまち」に向かつて区民の気持ちが一つにつながるように、との願いがあるからです。

中林●住民の自立性にまかせて、自助の力を蓄える。補助金型ではなくコミュニティ交付金型のような発想ですね。地域としての共助、個人としての自助が一つになつたまちづくりが住民の立場だとすれば、その外側にある都市スケールの都市づくりで大災害から住民を守るのが行政の仕事。これこそ官民協働です。

区長●地域の力という観点から言えば、もしも

て、地域の子どもたちとして地域みんなで育てていくべきではないでしょうか。彼らが親になればその子どもが同じように教育を受け、40年もすれば3世代が、まちを愛する気持ちや、災害に負けないところを身につけることになります。

今回の震災で「津波でんでんこ」という言葉がクローズアップされました。これは命を守るにはお互いの自助を信頼して、てんでばらばらに逃げなさいという意味なんですね。東海地震は津波が5分で到達すると言われており、こうなると一人ひとりががんばって逃げるしかありません。

区長●保護者と子どもが共に防災の知識を持つ、それぞれ自分の命を守れば、結果として全員が助かるということですね。保護者が帰宅困難になつても、子どもは地域や学校で安全に過ごせるという信頼関係が築けていれば、危険な中を是が非でも家までたどり着かなくも構わない。地域への信頼が命を救うことにつながるのでしょうか。





「安全安心なまち」は わたしたちの手でつくる

住みなれたまちで、おだやかに暮らし続けたい
という思いはだれもが同じです。
そのためには、まず地域がかかえる問題をとらえ、
一步を踏み出すことが必要になります。
一人の力をみんなの力に。住みやすいまちを
つくるために活動する皆さんから、お話をうかがいました。



町会はまちづくりの中心 さらに災害に強いまちをつくる

上池袋町会 会長
山寄 和弘さん

「地震が起きた際、木造住宅が密集する私たちの地域で一番心配されるのは火災です」と語る山寄さんが会長を務める上池袋町会では、復興までを念頭に置いたまちづくり訓練を行なっています。「私たち



木造密集地域の上池袋では本格的な防災訓練を行なっている



は実際に防災公園にテントを張って、水も電気もない避難生活を体験しました。防災公園に作ったベンチ型の大きなかまどで火を起こし、年2回は福祉もちつきや赤飯づくりもしています。現在、さくら公園にある大きな井戸を、消防活動や仮設トイレの水洗に利用できいかと検討しているところです。また防災だけでなく、今後はまちかどの防犯カメラやAEDの設置なども考えています。町会が中心になり率先して行動することで、住民の安心感も強くなりますね」。

子どもたちだけで歩けるまちに。 繁華街の環境浄化パトロール

池袋西口駅前環境浄化推進委員会
委員長 加藤 竹司さん

都内でも有数の繁華街である池袋西口駅前では、周辺の6つの商店会と警察、区が協力して「環境浄化パトロール」が行なわれています。「みんなで力を合わせ、特に風俗店などの客引き・スカウト・ビラ配り・違法看板などをなくすために声をかけた結果、数字の上でも周辺での犯罪件数が減ってきましたし、『きれいになりました』との声も聞かれるようになりました」と語る加藤さんはこの池袋こそがふるさと。生まれ育った大好きなまちを安全安心なまちにして、次の世代につなげたいとの願いはひとしおです。「現在は災害時の帰宅困難者対策を急いでいます。今後は、地元企業や大学にも協力を仰ぎ、まちぐるみで防犯・防災活動を取り組んでいきたいと思います」。



パトロールを続けて16年。区条例の改正など活動の成果は出でている



お互いにできることで ご近所どうし助け合うまちを

おたすけクラブ 副代表
伊東 純子さん

伊東さんが所属する「おたすけクラブ」は、いつまでも住みなれたまちで暮らしたいとの想いを胸に、近隣や会員同士でお互いに助け合う池袋本町のボランティア・グループ。活動は丸10年を迎えます。「75歳前後を中心とした163名の会員があり、うち30名をサポートしています。買い物の手伝いや掃除、洗濯、病院の付き添いなど要望は様々です。最近増えているのは話を聞いてほしいという依頼。大変さもありますが、それ以上に心に寄り添うことの喜びのほうが大きいですね。空き店舗を利用してのお茶会など、商店街との連携も生まれています。家の外に出られなくなってしまったからではなく、日ごろからご近所同士が顔見知りになり、よい関係を作っていくことが基本になるのだと思います」。



会員宅の電気ポットの利用状況をインターネットでチェックし、健康状態を把握する「見守りポット」サービスも行なう



障害者サポート講座で学ぶ こころの面でのバリアフリー

身体障害者福祉協会 副会長
小宮山 芳人さん

障害者にどのように対応すればよいのかわからない。こうした疑問に答えるため

に区が行なう「障害者サポート講座」の講師を務めるのが、自身も視覚障害のある小宮山さんです。「障



講座では白杖を持つ方への声のかけ方を含めたブラインドウォークも学ぶ

めのが、自身も視覚障害のある小宮山さんです。「障害者を見かけたら『何かお手伝いしましょうか』と気軽に声をかけてもらえるとありがたいですね。エレベーターや点字ブロックの設置といったハード面での整備は進んでいますが、これからの課題は、こころの面でのバリアフリーです。私たちにとっては、マナーの悪い自転車や、あるいは道路にはみ出したごみ袋なども歩行を混乱させます。レストランで食事をしたり、社会参加をしたい気持ちは健常者と一緒に。障害者が安心して外出する社会になることを願っています」。



自転車マナーの啓発運動 区の指針<としまモデル>に期待

目白交通安全協会 副会長
(目白交通安全活動推進委員会議会 会長)
唐澤 和子さん

「普段からマナーの悪い自転車を見ると声をかけてしまうんですよ」と語る唐澤さんは、東京都公安委員会から委嘱された交通安全活動推進委員。目白警察署管内で交通安全の啓発に取り組んでおり、中でも自転車のマナー向上には力を入れています。「携帯電話やヘッドフォンを利用しながらの運転、さらに無灯火は本当に多いんです。区からも正しい乗り方の指針<としまモデル>を作成してほしいですね。お願いしたいのは、家庭でのお子さんに対する安全教育。安全を学ぶとは、自分の命はもちろん、ほかの人の命も尊いことを知る命の教育です。それが広がることによって、交通ルールを守る安全な社会になるはずです」。



目白駅周辺でLEDライトを勧める
「ブルーライト目白」
作戦を行なった



日本で3番目のセーフスクール認証を目指す朋有小学校では、「子どもたちのがや事故をなくしたい」と願い、より安全な教育環境づくりを進めています。保護者や地域との協力は欠かせませんが、安全な学校の主役はあくまで子どもたち。自分たちの学校は自分たちの手でつくるとの想いから、一人ひとりが考え、委員会を中心に行動を始めています。セーフスクールの認証に向けて心を一つにすることで、子どもたちもまた日々成長しています。



保護者による地域の危険な場所を調べるワークショップ



けがをした場所を尋ね「けがヒヤリマップ」にシールを貼る保健委員

インターナショナルセーフスクール認証を目指す集会



心ひとつに安全で安心な学校をつくろう

・・・・・ インターナショナルセーフスクールへの取り組み ・・・・・



明るく元気な朋有小になるよう、代表委員が声をかけます



校庭や教室での危険な遊びを演じてみせる集会委員



2、4、6年生全員が参加しての「自転車安全教室」

年始の休日診療

問 地域保健課管理係 ☎3987-4203 (1月1日~3日は区役所代表 ☎3981-1111へ)

	診療機関	診療日	所在地	電話番号	受付時間
内科・小児科	池袋休日診療所	1月1日祝~4日水	東池袋1-20-9 池袋保健所6階	3982-0198	午前9時~午後0時30分 午後1時~午後9時30分
	長崎休日診療所	1月1日祝~4日水	長崎2-27-18(3階)	3959-3385	午前9時~午後0時30分 午後1時~午後4時30分
	大越外科医院	1月1日祝	東池袋2-26-4	3971-3012	午前9時~午後4時30分
歯科	小林内科クリニック	1月2日月	巣鴨1-4-1	5977-8070	(必ず当日事前に電話してから受診してください)
	高橋診療所	1月3日火	東池袋5-27-8	3971-0585	
	池袋歯科休日応急診療所	1月1日祝~4日水	東池袋1-20-9 池袋保健所6階 あぜりあ歯科診療所内	5985-5577	午前9時~午後4時30分 (要電話予約)
薬局	池袋あうる薬局	1月1日祝~4日水	東池袋1-20-9 池袋保健所1階	3984-7540	午前9時~午後9時45分

●「豊島こども救急クリニック」(都立大塚病院内)は、平日夜間診療のため、1月1日祝~4日水は実施していません。

●受診の際は、健康保険証を忘れずにお持ちください。

東京都保健医療情報センター

- 医療機関案内サービス「ひまわり」(音声案内・24時間受付) ☎5272-0303
HP <http://www.himawari.metro.tokyo.jp/> (パソコン用)
HP <http://www.himawari.metro.tokyo.jp/kt/> (携帯電話用)
- 聴覚障害の方などの専用ファクシミリ案内(24時間受付) FAX 5285-8080
- 外国語での医療情報サービス(毎日 午前9時~午後8時)
(英語、中国語、ハングル、タイ語、スペイン語で対応) ☎5285-8181

東京消防庁

- 救急相談センター(24時間受付) #7119 または ☎3212-2323
- インターネットによる救急病院案内
(受診可能な救急病院をホームページで案内しています。)
HP <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/kb/index.htm>

東京都

- 小児救急相談(午前9時~午後5時)(1月4日水は午後5時~午後10時)
#8000 または ☎5285-8898

●豊島消防署 ☎3985-0119 ●池袋消防署 ☎3988-0119

施設などの開設状況

問 総務係 ☎3981-4451 (1月1日~3日は区役所代表 ☎3981-1111へ)

施設名	年始(から)
区役所(東西区民事務所※集会施設含む)	1月4日水
区民集会室など	
池袋第三、目白第一	1月5日木
上記以外の区民集会室	1月4日水
暮らしの関係施設	
南池袋斎場(1・2日も利用受付可 ☎5396-2873)	1月3日火
生活産業プラザ、勤労福祉会館	
豊島清掃事務所	1月4日水
自転車保管所、自転車駐車場(一部無休あり)	
男女平等推進センター(エボック10)	1月5日木
まちづくりセンター	
豊島リサイクルセンター	1月7日土
保健・福祉・教育施設	
高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	
福祉作業所、生活実習所、障害者就労支援センター	
心身障害者福祉センター(会議室含む)	
保健福祉センター(中央・東部・西部)	1月4日水
池袋保健所、長崎健康相談所	
豊島健康診査センター	
区民ひろば(区民ひろば集会室含む) (池袋本町・さくら第二は3月末まで休館)	

施設名	年始(から)
子どもスキップ、中高生センター、児童館(池袋本町は3月末まで休館)	1月4日水
子ども家庭支援センター(東部・西部)	
区立保育園	
豊島区社会福祉協議会	
勤労者福祉サービスセンター	
教育センター、図書館	1月5日木
文化施設	
豊島公会堂、区民センター	1月4日水
地域文化創造館(南大塚は4月、ホールは7月まで休館)	
あうるすぽっと(舞台芸術交流センター)	
熊谷守一美術館	1月8日日
体育施設	
豊島体育館、総合体育場、西巣鴨体育場、荒川野球場、巣鴨体育館、雑司が谷体育館、三芳グランド、池袋スポーツセンター	1月4日水
観光・公園施設	
雑司が谷案内処(1月1日~11日は午前10時~午後4時30分まで)	1月1日祝
池袋の森、目白の森、目白庭園	1月4日水
豊島区観光情報センター	
郷土資料館、雑司が谷旧宣教師館	1月5日木

●山中湖秀山荘、猪苗代四季の里は休まず営業しています。

帰宅困難者対策訓練

2月3日(金) 池袋駅周辺

帰宅困難者対策のための総合的な訓練を実施します。
詳しくは、区ホームページ(アドレス1面上部参照)などでお知らせします。

この訓練に参加・協力してくださる企業・事業所などを募集します

◇詳しくは、危機管理担当課へ問い合わせてください。
問 危機管理担当課 ☎3981-1353、FAX 3981-1737、E-mail A0011204@city.toshima.lg.jp